



教育研究所だより

令和3年度 No.12 (377号)

令和3年10月18日(月)

発行所：いの町教育研究所

ぷっくりハート推進事業 伊野中



当初、他校から多数の参観希望者がありましたが、新型コロナウイルスの感染対策として生徒の安全を第一に考え、参観者を分割する等、これまでと違った形で9月29日(水)に公開授業と学校版寺子屋を行いました。



◇公開授業 第3学年特別活動「自分を表現し発信する」

まず、アイスブレイク活動として「テレパシー」というゲームを行いました。ペアか三人組を作り、相手が思い浮かべている数字(1~3)を予想して当てる活動です。まず藤本教諭と榮枝教諭がデモンストレーションをし、教師自身が思いきり活動することで、楽しい雰囲気づくりをしていました。

次に、班で間違い探しゲームを行いました。生徒は班に配布されたイラストと、廊下に掲示されたイラストの間違いを探しました。各班1名ずつ廊下のイラストを見に行き、間違いを見つけたらジェスチャーで仲間に伝えました。授業者の藤本教諭は、生徒の動きの良さや、反応の良さについて常に褒めて、認めて、励ましていました。

その後、生徒は振り返りシートに本日の活動についての感想を記入しました。授業の終わりには、生徒同士が今日の授業において仲間の良かったところを伝え合う活動を行い、笑顔で1時間の授業を締めくくりました。

藤本先生より

i-checkの結果から、友達関係はよいが本音を出し合うことが難しいという面もあるため、本時の活動を計画しました。振り返りの時、生徒が集中して書いていたので、途中で止めませんでした。そのため、全体共有の時間が短くなったのが残念です。しかし、他者理解ができていく生徒がいたことが有意義でした。

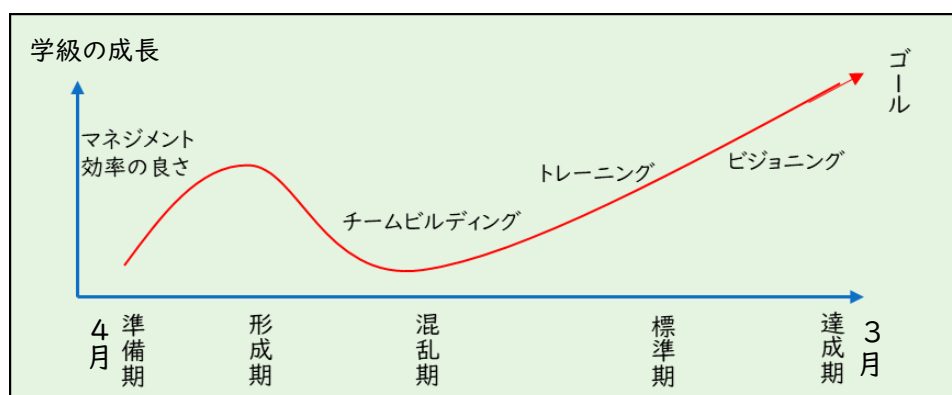
授業の盛り上がりのピークは、打ち合わせなしで榮枝先生と気持ちが通じ合ったところでした。そこで生徒が盛り上がり、楽しく活動できました。

授業参観者より

- ・ 活動中は生徒の表情も良く、自分の考えが伝わる、相手の考えが分かるということが嬉しいということが伝わってきた。振り返りで、ねらいに迫るためのシェアができれば良かったのではないかな。
- ・ 間違い探しの活動の後、再度体育大会の練習と関連付けたことで生徒の中での振り返りが深まったと推察する。日常生活の中で直面していることにつなげたことで、今回の活動が各自の中に生きるのではないかな。

菊池先生より

1. タックマンモデル(1965年タックマン)によると、チームの発達段階には4つのステージがあります。形成期、混乱期、標準期、達成期です。混乱期から標準期へ行くには、自己開示や他者受容が必要です。そして、達成期には生徒全員が何かのリーダー的役割を担う状態にあります。教師は、全員リーダーへ向かっていくための授業の振り返りを取り上げ、価値づけて欲しいです。



2. 教師のモデル→ペア→ペア→易しい課題→難しい課題と、徐々に活動のレベルを上げていくことで多くの感想を生みます。面白い組み立ての授業でした。これからの授業は学習者中心の授業づくりをしましょう。一斉指導から脱却し、「全体の動きがどうだったか」ではなく「学習者の動きがどうだったか」に目を向けましょう。
3. 振り返りの種類には以下の7項目があります。それらが生徒の言葉に表れるようにしましょう。

振り返りの種類

- 1 何があったか(描写)
- 2 どう感じたか(感情)
- 3 何が良くて何が良くなかったか(評価)
- 4 どんな意味があったか(価値)
- 5 なぜ良い(良くない)状況になったか(分析)
- 6 自分の成長や仲間の成長がどう影響したか(影響反映)
- 7 次に同じ状況のとき、こんな風にしてみたい(行動計画)



おわりに

校内研当日は伊野中学校の先生方のご協力により、研修をすることができました。ありがとうございました。伊野中学校の生徒たちは、楽しんで活動に取り組んでおり、とても朗らかで素直な生徒だという印象を受けました。授業者の藤本先生も、常に笑顔で生徒に声をかけ続けており、温かい学級づくりをしていることがよく分かる研究授業でした。